令和６年　８月　２０日

行 政 視 察 報 告 書

委員会名（会派名）	公明党、新風みらい	**報告者**	新風みらい　佐野大輔議員
視察日程	令和６年７月３１日 ～　８月２日		
調 査 事 項 及び 視 察 地	① 北海道恵庭市の官民連携複合施設 緑と語らいの広場（えにあす）について		
	② 北海道北広島市のエスコンフィールドについて		
	③ 北海道旭川市のユネスコデザイン都市の取り組みについて		
	④ 北海道旭川市の ICT パークの取り組みについて		
	⑤ 北海道鷹栖町の議会広報の取り組みについて		
	⑥ 北海道余市町のランニングストック方式による防災備蓄について		
参加議員（委員）	（公明党）渡邉雄三、近藤隆行 （新風みらい）田澤信行、中山眞二、藤井秀人、田中淑子、佐野大輔		

【調査目的・内容】

燕市においては、今回のえにあすとは少し形は違うが民間活力を活用した賑わいの創出をしている「まちトープ」や指定管理という形ではあるが「道の駅くがみ」などが動いており、さらには、今後、図書館や公共施設などをどのように更新、整備していくかの参考となる事例として調査した。

【所感】

今回は、民間の事業者とし、この複合施設の「えにあす」を管理している民間のアルファコートさんからこれまでの経緯や実際の現場の見学を含めて案内していただいた。

そもそも恵庭市では、将来の都市像としてコンパクトな生活都市を基本理念とするとともに、公共施設マネジメントの観点から、駅周辺における公共機能の集約と、民間施設誘致による賑わいの創出が必要と考え、恵庭駅周辺にある市有地について、民間事業者に貸付し、民間事業者が自らの資金調達により、市が求める性能を満たした公共の機能と民間の機能を有する「(仮称) 緑と語らいの広場複合施設」を緑町 2 丁目の市有地「緑と語らいの広場」を整備を行った。

①　複合施設は、「アルファコート緑と語らいの広場（愛称：えにあす)」として平成 30 年 2 月末に完成し、民間の機能としてスポーツクラブ、コンビニエンスストア、地域 FM 放送を設置し、公共の機能として市民活動センターや保健センター、夜間・休日急病診療所、図書館恵庭分館が移転し、併せて学童クラブや子育て支援センターなどの機能を設置し、平成 30 年 4 月 1 日に供用開始。

実際の現場も見学させていただいたが、施設の真ん中には公共部分の図書館恵庭分館があり、その周りには子どもたちが過ごせる児童クラブがあることで、図書館の本を活用した形での読書などもできるようになっていたり、中高生たちは学習スペースで勉強したり、食事したりしながら過ごせている部分と、周りには民間の各施設があり、そこが自然な形で融合していた。
さらには、若者だけでなく年配の方も含めて市民活動センターや保健センターを利用したり、先ほどの図書館なども活用していて、世代が融合した施設になっていた。
燕市では、こういった形で複合型の機能を持った施設は少ないので、今後の公共施設のあり方を検討する上で非常に参考となる事例であった。

②	**【調査目的・内容】** 燕市では、これからサッカー場建設など公共施設、とりわけスポーツ施設のあり方を検討していく中で地方のこういった施設を建設するスキームの一番参考となる事例がエスコンフィールドであり、今回は、視察が多くあるため説明の機会は得られなかったが、資料と合わせて現地を視察した。 **【所感】** **資料より** 今回のエスコンフィールドができた経緯として、以前の札幌ドームは札幌市が所有し、市と地域が出資する株式会社札幌ドームが運営・管理していた。札幌ドームを使用すると、1 試合当たり 1600 万円程度、年間で約 13 億円を要したが、ファイターズ株式会社や日本ハム球団は競技のネーミングライツや広告収益などの一切が配分されない状況だった。高額な賃貸料、スタジアム内販売収入の減少、多目的施設ゆえの硬直性などを要因に、日本ハムと球団は独自のスタジアム建設を推進。 北広島市が提案する 36 ヘクタールの広大な敷地が、競技場と周辺施設の両方を建設するにあたり優位となり、北広島市はこのほか、インフラ整備費の負担、日本ハムへ土地無償賃貸、球場その他の公園施設に対する固定資産税と都市計画税を 10 年間免除することで合意し建設された。 新球場誘致にあたり、誘致表明までの間の球団との意見交換において、市が目指す都市像(「希望都市」「交流都市」「成長都市」)と球団の理念が、同じ方向性であることを確認し、新球場を核に賑わいや交流を創出するエリアとなるボールパークの整備を契機として地方創生を図ることが、目指す都市像の実現に大きく寄与すると考え、2016 年 6 月から誘致を促進し、球団と、まちづくりについての想いを共有しながら協議を重ねた上で、実現。 北広島市側としては、居住、観光、ビジネスにおける交通利便性と豊かな自然の中での暮らしが共存するポテンシャルがある一方で、急速な少子高齢化、人口減少による活力低下や、地区の分散と都市機能の不足、流出が現状課題として生じており、未整備公園をきっかけとした官民連携プロジェクトとしてボールパークを整備することで、北広島市の未来の担い手となる居住者や企業立地を促進、持続的な都市経営と社会課題の解決を図る地方都市の再生モデルを実現することを、北広島市のボールパーク構想と位置づけ、推進を図ってきた。 実際の球場内や周辺の施設を現場で視察したが、一般的な球場というものとは異なる「ボールパーク」という言葉がしっくりくるくらい、また、北広島市自体がこのボールパークを中心としてさらに街ができてきている印象だった。 地域の方のお話では、さらに球場の近くに駅が新設されていくなど、一つの取り組みがここまで都市構造に大きな影響を与える事例で、実際の移住者や観光客が大幅に増えていることで宿泊棟の施設が足りないくらいになっており、相当な経済効果を生み出していることが改めて現地を視察し理解できた。
③	**【調査目的・内容】** 都市形成において「デザイン」は、より街を魅力的に見せるだけでなく、街の活性化に繋げたり、インバウンドや観光にも寄与するとの考えから、今回はデザイン都市の先進地であり、ユネスコ創造都市ネットワークにも加盟している旭川市の取り組みを調査した。 **【所感】** 北海道旭川市は、もともと家具やクラフトなどの産業分野を中心としたデザイン活動が地域の強みを作り上げてきた歴史があり、この取り組みも民間側からの動きが強くあったことからデザイン都市旭川の取り組みが動いてきた。 実際に IFI インテリア宣言の調印、また、ユネスコ創造都市デザイン分野の加盟に向けて「あさひかわ創造都市推進協議会が立ち上がったが、会長は家具組合の方が担っており、現在は 28 の企業・団体、5 名の個人が会員として運営している。 ユネスコ創造都市の具体的な取り組みとしては、国内に 11 都市ある創造都市と交流したり、国外の

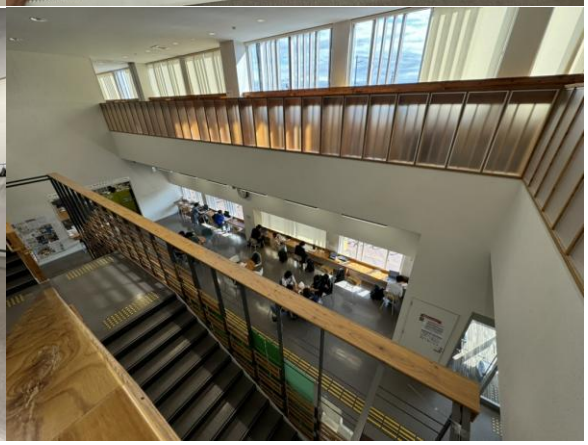
	創造都市ネットワークも活用するなどユネスコ創造都市になったことで、様々な交流が生まれていることを聞かせていただいた。 さらにはしないの取り組みとしてもデザインセミナーの開催やデザイン経営の推進、さらにはイベントとして１週間、「あさひかわデザインウィーク」を開催するなど様々な取り組みにデザインが落とし込まれていた。 特に「あさひかわデザインウィーク」では、デザインコンペや関連する 52 のイベントを開催、中には子どもたちや学生との連携も進んでおり、とても参考になる事例だった。 一方で、旭川市さんからはものづくりとデザインの融合した参考事例として、実は燕三条工場の祭典も視察に来られたり、見せ方の参考にさせていただいていたなど、今後お互いに交流することもできるきっかけにもなった。 さらに子どもたちに向けでいうと、小学校にデザイン冊子や出前授業なども行っていて、自然体の面で取り組んでいることでデザインに対する意識を上げていく取り組みはぜひ燕市でも参考にしたい事例と感じた。
④	**【調査目的・内容】** 燕市でも DX や少しずつｅスポーツに取り組む団体も出てきている中で、今後の ICT 人材の育成やｅスポーツの分野についても可能性が広がっている中で、先進地であり、実際にｅスポーツの大会会場の整備なども行っている旭川市さんの事例を調査した。 **【所感】** ICT パークは、まちなかの賑わい、ICT に関心の高い人材の育成、IT 関連企業誘致や最先端技術の導入などを目的として、令和 3 年 2 月 7 日に旭川市 3 条通 8 丁目の神田館内に開設された施設で、管理・運営は一般社団法人大雪カムイミンタラ DMO が行っている。 詳細としては、ｅスポーツを核に人や地域経済の流れを加速、増加による新たな賑わいの創出や最先端の ICT 体験による、子供たちの夢の動機付けを行ICT 人材を確保していくとともに、地場産業の高付加価値化と新産業の創出にも繋げており、多様な産業の交流から生まれる相互理解、連携の促進にも繋げている お話を聞きながら実際の施設を見学させていただいたが、トレーニングジムと聞くと一般的に筋トレ器具のようなものを想像するが、ここでは、高性能PCを用意してｅスポーツに取り組んだり、複雑な動画作成などを行えるなど、イメージとは違うトレーニングジムが運営されていた。 また、隣接する施設では、もともと映画館だったところを本格的な ｅ スポーツの大会を行えるように全国的にも珍しい劇場スタイルのホールに高性能 PC や映像・音響・照明設備、通信設備が常設されていたり、そこを使っての・スポーツや音楽ライブビューイング、講演会、学校授業などにも活用されていた。 さらに、高性能な設備を整えていることで、ステージイベントなども行えるようになっており、ICT パークではあるが、それ以外の様々なことにも応用できるような仕掛けになっていた。 今回の視察を通して、より早くこういった分野に取り組むことで、国内だけでなく世界的なイベントの開催にも繋げることができるなど、いかに先見の明をもって事業に取り組むかの重要性を感じた。
⑤	**【調査目的・内容】** 燕市だけでなく、他の自治体も含めて議会をいかに関心を持ってもらうか、知ってもらうかは重要な課題であり、このままではいけないという危機感からユニークな議会広報を作成されている鷹栖町さんにお伺いし、資料をいただくとともに事務局の方から少しの時間ではあるが、経緯についてお聞きした。

	【所感】 いまではＳＮＳでも北海道鷹栖町議会が作った議会の傍聴を呼びかけるチラシが「面白い！」「興味をひくデザイン！」話題になることが多いが、当初、このような取り組みを行った背景には、３期連続で市議会議員選挙が無投票だったということから、なんとか町民の方に興味を持ってもらいたい、もっと政治を身近に感じてもらいたいという思いから始まったとお聞きした。 実際に取り組みをはじめてからは、傍聴席に普段は見たことがない方が来てくれたり、チラシを持ってきて『面白そうだから来たよ』と言ってくれる方が来てくれたりと議会の傍聴者が３０人を超える日もあり、傍聴者が２倍になったとのこと。 また、その結果が形になって２０２３年には１６年ぶりとなる“投票による市議会議員選挙”が行われたとのことで、議会に興味を持っていただくことでここまでの効果があることを改めて知ることができた。 さらには、議会報の編集方針もお聞きし、わかりやすさ、読みやすさ、正確性はもとより、そこにインパクトということも挙げられており、そういったことからこの議会広報の形につながっているのだと改めて感じた。 ただチラシや週刊誌、ポスターなどを似せて作っていることから、もちろんその元ネタの制作元に許可を得る際に時にはときどき許可が得られないこともあると苦労もお聞きすることができた。
⑥	**【調査目的・内容】** 災害が起こった際の防災備蓄については、ある程度しっかりと自治体内で確保する必要はあるが、課題としては、賞味期限などがあったり、劣化していくということがある そういったところからその一つの参考事例として、普段はお店の在庫として置いておきながら災害が起きた時にはそれを防災備蓄として活用できる形として余市町のランニングストック方式の取り組みを調査した。
	【所感】 ランニングストック方式の防災備蓄については、余市町、積丹町、古平町、仁木町、赤井川村の5町村で北後志広域防災連携を結んでおり、余市町が取りまとめて行う取り組みである。 具体的には、札幌市に本社がある「サッポロドラッグストアー」にて自治体が購入した備蓄用の食品と飲料水をふだんは店舗での販売用の在庫として活用し、災害が起きた際は避難者向けに提供することで効率的な備蓄を目指す取り組みを今年から始めた。 取り組みでは、自治体がこのドラッグストアから購入した備蓄用の食品と飲料水をふだんは店舗での販売用の在庫として活用することで、保管コストや廃棄ロスを減らす効率的な備蓄を目指していて、災害が起きた際は自治体からの求めに応じて返還し、避難者向けに提供することになっている。 ふだんから少し多めに食品などを買い置きし、賞味期限が切れる前に順次消費していく「ローリングストック」と呼ばれる方法を一般の家庭では行っているが、自治体の備蓄として災害時に5つの町と村で想定される避難者5600人分の備蓄食2食と飲料水を、北広島市にあるこのドラッグストアの物流拠点で保管し、陸路の場合はヤマト運輸から、また陸路が使えない場合もヘリコプタークルージングなどを行っている企業と連携して、空輸での配達も行うなど考えられた取り組みをされていた。 また、先ほどの連携5町村で備蓄品を購入することで単価を下げることにもつながっており、商品の5%の管理手数料は毎年かかってくるものの、ランニングストック方式を採用することで長期保存用のものではなく、保存期間一年未満の商品を提供でき、また、湯煎設備は必要になるが、災害時に温かい食事を摂れることもメリットとしてあり、被害に遭われた方々に寄り添った形でとても参考になった。

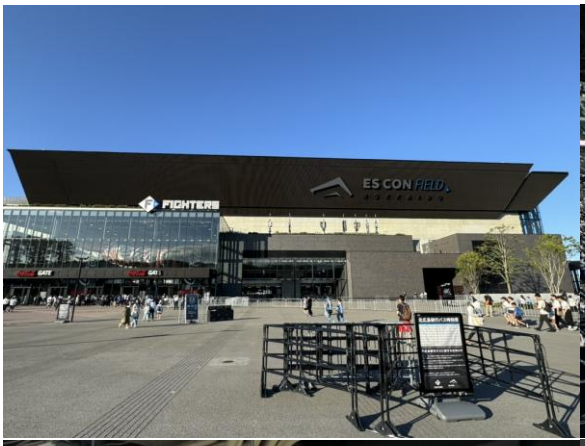
令和６年　８月　２０日

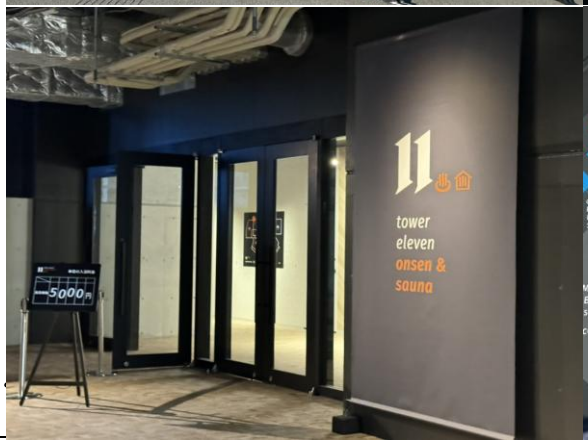
【視察の様子】

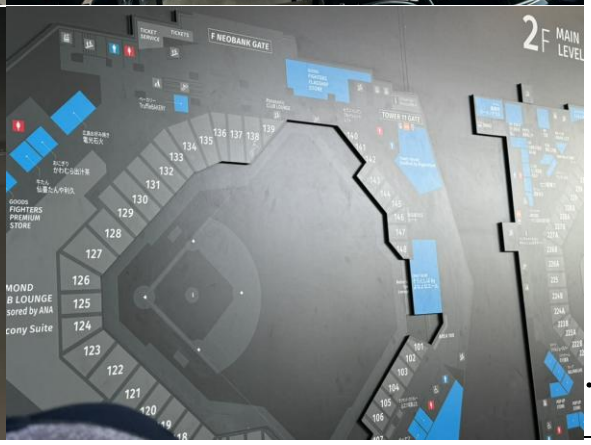
① 北海道恵庭市



② 北海道北広島市



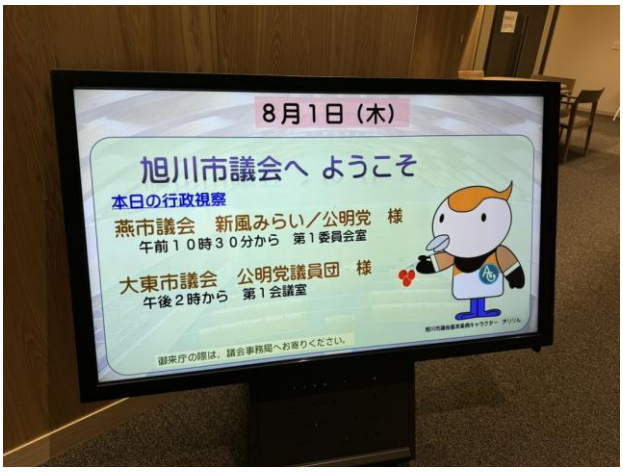




令和６年　８月　２０日

【視察の様子】

③ 北海道旭川市



④ 北海道旭川市 ICT パーク

令和６年　８月　２０日

【視察の様子】

⑤ 北海道鷹栖町（資料受け取りと聞き取りのみ）

⑥ 北海道余市町